



ມາຈາກແຄມຂອງ~メコン川のほとりから~ 第3号



サバイディー！現在、青年海外協力隊としてラオスで活動中の本校教諭のコウラです。

○●『ラオス』って暑いのか？季節は日本とどう違うのか？●○

ラオスの季節は「雨季（5～10月）」と「乾季（11～4月）」の2つですが、最も暑い3・4月を暑季と呼ぶこともあります。4月には40℃を超える日もあるとか！ただ、ラオスは南北に長いので、気温は地域によってかなり差があります。私の住むサバナケット（中部の一番南）では、雨季も乾季も日中の最高気温は30～35℃くらいが普通ですが、乾季の中でも12～1月頃は朝晩が涼しく15℃くらいになる日も。ラオスの普通の民家は暑さに強い構造なので、隙間風があり、暖房器具もないので体感気温はもっと低い気がします。

ところで皆さん、「雨季」と聞いてどんな様子をイメージしますか？雨季とは「一年の降水量の多い時期」のことで、日本の「梅雨」は雨季の一つと言えるそうです。しかし日本の梅雨は強くなったり弱くなったりしながら、一日中ずっと雨が降っていることが多いですが、ラオスの雨季はまったく違います。“夏の土砂降り”の雨のイメージです。それが1時間程度続き、一日に何回か降るとき以外は“青空”です。雨季の朝の雨は、「パシャパシャ、サーツ」という音が響き、なんだかとーっても気持ちよく眠れるんです（寝すぎてしまう！）。

= インタビューコーナー =

今回は卒業生ではありませんが、NPO 団体で活動中の法政大の竹下さんにお話を聞きました！

Q.これまでの経歴と、現在の所属先・活動内容を教えてください。

高校時代に外交官を志し、法政大学法学部政治学科へ入学。
現在は大学を休学し、NPO 法人 e-Education のインターンシップ生としてラオスの小学校で算数の授業改善プロジェクトの立ち上げに取り組んでいます。



Q.なぜ、留学に参加しようと思ったのですか。

長所である「人と仲良くすること」で、国家間の課題解決をしたいと志し、その後、予備校での指導経験を通じ「教育で世界の課題を解決する」夢を持ち、その夢に挑戦できる機会が現れたからです。

Q.ラオスで生活・活動する中で一番大切にしていることは何ですか。

「Trial and Error」です。挑戦と失敗をし続けた先に成功があるので、とにかく行動しています！

Q.国際協力や海外ボランティアに興味がある中高生にメッセージをお願いします！

まず行動してみませんか？ネットで「国際協力 中高生」等と調べるだけで未来が変わるかも！

●○『途上国』に行ってみて、住んでみて ○●

「食わず嫌い」の食べ物って、ありますか？食べ物に限らず、“なんとなく聞いた話で”“見た目” ちょっとなあ…と思うもの・ことって人はみんなあると思います。『途上国』というのも、同じかもしれません。教科書で勉強したことがあるけれど、その知識やイメージと、実際の途上国（と言っても、さまざまな途上国がありますが…）って、本当に同じなのでしょうか？

私がラオスに来て驚いたことは、「首都はすごく発展している」ことと「都市部ではこんなに多くの人がスマートフォンを持っている」ことでした。首都ビエンチャンには、日本食屋も映画館も、ステーキも日本の調味料も何でもあります。他の国でも同期隊員が同じように驚いていました。大きな都市では小中学生もスマートフォンを持っている人がいて、幼い子どもも Youtube の動画に釘付けです。



一方で、病院がない村や、電気・水道が不安定な街、家の手伝いが忙しく義務教育を受けられない子ども・言葉がわからなくて学校を中退する子どもが多い地域、そういったところもたくさんあります。私は途上国とは、『全部が発展していない』のかと思っていましたが違いました。『すごく発展しているところとそうでないところの差が、想像できないくらい大きい』のです。もう少し難しく言うと、モノ・教育・医療・情報等に、地域・民族・家柄において私たちが想像できないような格差があることこそが、途上国であるということなんだと思ったのです。

ほんの一部ですが、途上国のイメージと少し違ったのではないのでしょうか？私もそうでした。きっと、海外から見ると日本や、今海外で生活している人・仕事をしている人もみんな、はじめはそうなのだと思います。何も知らなければ話になりませんが、“知った後”もそれ以上に大切なのだと感じます。「まずは知識として知ること」そして「その知識が本当なのか」と思うこと、確かめること、考えること、実際に見たり体験したりしてみることで、自分自身の世界を広げていくことなのではないかと、最近考えています。『生の体験』を、一番大切にしたいと強く思います。

～他国の協力隊アレコレ～

今回は「行ってみてわかった、任国・途上国のイメージとのギャップ」を聞きました！

最貧国なのに、生活習慣病患者や肥満者がとても多い(マラウイ・看護師)

首都はビルが建ち並び、車や電車が行き交い、男性も女性もお洒落(エチオピア・理科教育)

首都ではマレー語よりも英語の方が通じたりする(マレーシア・障害児者支援)

路上にゴミが多い。産業や工業があまり発展していない国は、もっと街並みが綺麗だと思っていた。

(東ティモール・作業療法士)

意外とみんなスマホを持っている。ネットが通じる！（ガーナ・小学校教育）

日本人が思う“危険”、“みんなかわいそう”といったイメージが強かったが、

実際は笑顔が溢れる心が豊かな人達がたくさんいる国でした！（ウガンダ・小学校教育）

意外と英語話せない人が多い(ベトナム・作業療法士)

これって何？どこ？と思ったら、ぜひ調べてみてください。次号へつづく！